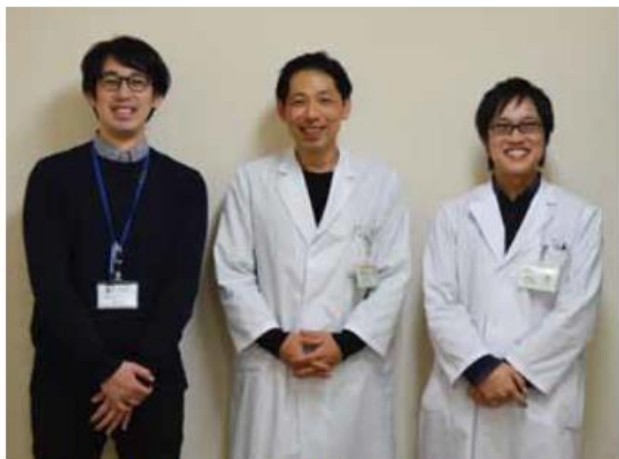




高齢者の暮らしを考える

認知症を発症した場合、ご本人だけではなくご家族もとまどい、介護の負担を重くすると言われています。しかし実際に早い段階から専門家の治療やサポートを受けられている方はまだ少ないのが現状です。認知症でお困りの方が、適切なサービスを受け、地域で自立した生活を続けられるように松阪市でも「認知症初期集中支援チーム」が平成30年4月から活動を開始します。チーム員である精神保健福祉士の皆様にお話を伺ってきました。

インタビュー 「認知症初期集中支援チーム」



(左から) 南勢病院 高柳さん 松阪厚生病院 田中さん 辻さん (いずれの方も精神保健福祉士)

松阪市認知症 初期集中支援チームについて 教えてください。

●田中さん

誰でも住み慣れた地域で自分らしく過ごせるように、認知症患者へ適時・適切な医療・介護サービス等の提供が実現できるように各自治体に「認知症初期集中支援チーム」の設置が義務付けられました。

松阪市では認知症の専門医(サポート医)に加え、精神保健福祉士、保健師などが構成メンバーとなり、チームとして認知症の初期段階での医療連携をす



ずめていきます。認知症であってもなかなか医療受診に結びつかず困っているご家族も多いことから、間に入ってサポートし、適切な受診や治療につなげることを目指しています。

●高柳さん

認知症に関することでお困りの方はまず市役所や地域包括支援センターに相談してもらい、支援が必要だと判断された場合はチーム員がご自宅へ訪問し、相談を伺い治療が必要なのか判断を行います。

直接ご自宅へ訪問することで細かな情報収集を行い、関係者と連携し、自立した生活が続けられる体制をしっかり作ってまいります。

今後、活動されるうえで、**思いを聞かせてください。**

●辻さん

認知症患者が安心して地域で暮らし続けるためには、家庭内だけではなく近所の方やかかりつけ医などの多職種を含んだ地域全体でのサポートが必要です。我々のような専門職が実際にご自宅へ訪問することで、地域と医療・介護の垣根を低くしてもっと相談しやすい環境、地域医療の実現を目指したいです。また初期段階での気づきが重要です。

松阪市で作られた「認知症ハンドブック」などを用いて、普段と様子が違う場合は市役所や地域包括支援センターへご相談ください。



※高齢者支援課(1階3番窓口)で配布しています。(松阪市のホームページからダウンロードもできます)